

白神山地ビジターセンターだより

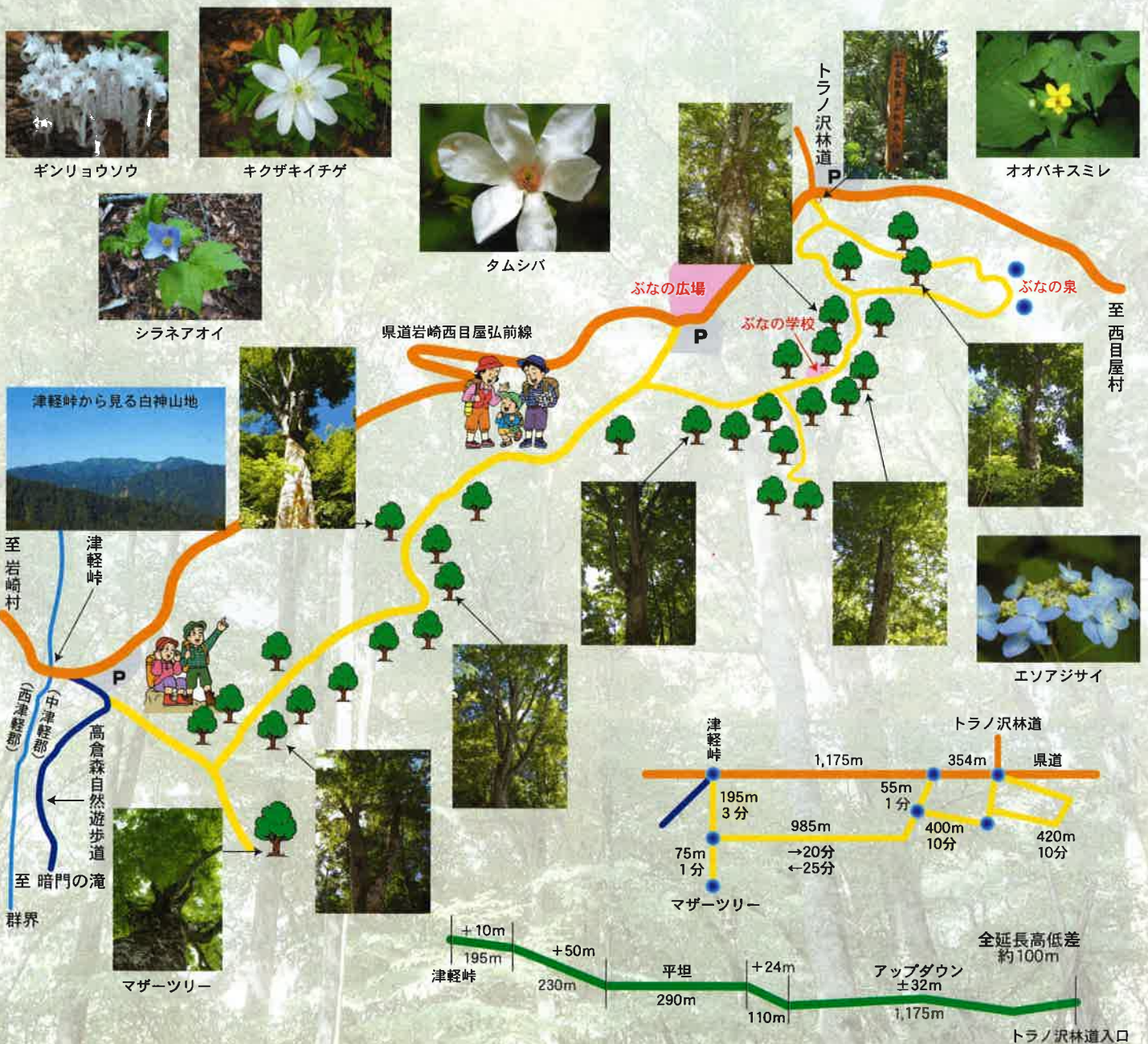
No.10



2006年 秋の号

「ぶな巨木ふれあいの^{みち}径」案内図

ブナ巨木ふれあいの径は、観察しながら散策すると約2時間かかるコースです。その中には、白神山地で生育する樹齢400年の「マザーツリー」にも匹敵するブナの巨木が30本ほど生育しています。又、春にはシラネアオイ、オオバクスミレなどの花が、あらゆるところに咲き乱れます。



世界自然遺産「白神山地」

(社) 青森県ユネスコ協会

理事 木田 貴郷

今年（平成18年7月27日）もまた、白神ラインの津軽峠から200mばかり入った所にあるマザーツリーへの見学道路の舗装工事のボランティアを行った。

昨年は、峠からマザーツリーまでの舗装であったが、今年はマザーツリーから延長して、岩木山と尾太岳を展望できる所まで行った。

舗装工事は、峠からマザーツリーまで比較的勾配も緩やかで、距離も



舗装された見学道路

短いところから、身障者の方々も、白神山地の偉大さの一端でも感じ取って頂ければ、という森林管理署のご配慮からであった。

展望所は、平成15年から昨年まで、津軽森林管理署が植樹祭を行ってきた場所の北端に位置していた。

展望所からは、津軽の人々から慕われ、崇められてきた「オラホの岩木山」が秀麗な姿



岩木山展望所

をどっしりと構えていた。九合目辺りから鱒ヶ沢方面の裾野まで流れている尾根のラインが何とも形容し難い程の美しさである。

手持ち磁石で測ってみると、北東43度の方向線上にあった。

弘前公園の本丸から眺める岩木山は、「山」という字を直ぐに連想させる程に、典型的に穏やかな山容をしているが、此処から展望できるお山は、その昔、明らかに噴火活動を繰り返した火山であったことを彷彿とさせてくれる峻険なお姿である。

その厳しさに見惚れて、さぞかし激しかったであろう噴火活動に暫し思いを馳せた。

そして、そこから、僅か数m南に歩みを移せば、尾太岳の展望所である。南東36度の方



尾太岳展望所

向に、明らかに尾太岳と分かるピラミッド型の頂上が屹立している。また、秋田県の三蓋山まで流れが台地上に観察できる。決して高くないが、どっしりとして落ち着きのある山並みだ。

縄文太古から、人間が温かく見守られてきた安堵感が滾ってきて、喧騒な現代社会で疲れた精神を静かに癒していってくれるのが分かった。いつまでも佇んでいた誘惑にも駆

られた。

峠の駐車場までの戻り道、ガイドに案内された観光客達がマザーツリー目当てにゾロゾ



樹齢400年のマザーツリー

ロと歩いてくるのに出会った。一応それなりの服装はしているが、中には鬨感モドキがいる。ノー sleeves で肌を露わにしているのは本人の自由なのだろうが、蜂に

でも襲われたら一体どうする積りだろう。本人は勿論、ガイドの常識を疑わざるを得ない。

天下の世界遺産も、安っぽい名所旧跡並に下落してしまったもんだなあ〜、と慨嘆せざるを得ない。

このような観光客たちの姿を、元青森県知事であり前（社）青森県ユネスコ協会長であった北村哉氏は、冥土でどのように感じておられることだろう。

わざわざパリのユネスコまで訪問し、ジュネーブの世界自然保護連合まで足を延ばした結果が、このような俗悪な観光地になってしまうとは…と、嘆いてはいらっしやらないだろうか。

「春秋林道に反対する連絡協議会」の元会長であった村田孝嗣さんは、「今後、若い人達が森を守る心を引き継いでくれるだろうか」という強烈な危機感を持っていた一人であった。

そして彼は言った。

「保護運動に立ち上がったのは、私自身が高校時代に白神に分け入った体験があるから。白神の自然は人をつくる。世界の財産である森に入ってこそ、森を守る心が育つ。」

彼の意図しているところには、非常に深い意味が内包されているのがよく感じ取れる。

諸行無常とは、平家の栄枯盛衰を物語って余りある言葉であり、日本人には人生の艱難辛苦・利害得失を適切に表現する言葉でもある。そして、驕る人達に対しては日常的に警告を発信する言葉でもある。

気候が温暖でしかも雨量の多い東南アジアの人々には、共通している人生観かも知れない。

インドのバラモン教、ヒンズー教、仏教を通ずる大自然への讃美と畏怖、人間の不浄観、中国から長い歴史的経過を経て影響を受けてきた儒教や道教の底流に通ずる広大恒久な天地との冥合、栄枯盛衰人生の浮き沈みに繰り返される人間世の反省、日本人の清く明るい神道の信仰やみそぎ祓いの思想などは、どこか何れも相共通するものが、それぞれニュアンスは異なるものの、人間の存在とそのとりとめのない現世に対しては、斉しく無常観・虚無感を抱き、最終的には、天然自然の内包している偉大な力に畏怖し、そして崇敬の情念を高めてきた。

少数とは言っても、未だに続いている山伏達の厳しく修行する姿にその一端を垣間見ることができる。

畏怖と崇敬の情念は、一見矛盾をしているようであるが、その実深い内面的調和をもって人生を展開してゆく原動力となってきた。長い人間の営みの中で、時に卓越したリーダー達によって、私達の信仰・哲学・文芸・生活心情ともなってきた。

これからは、科学的に分析・理解・感得するしないに拘わらずであった。換言するならば、大自然が有している機能と効果を具体的に知っているかどうかは関係なしにである。

人間が、夢のような、幻のような、形のない影のような、一瞬にして消え去る朝霧のような、また雷の閃光のような現象世界の迷いや悩みに驚愕し、慌てふためき、そしてそこ



白神岳からみた核心地域

から解脱することを大自然に求めてきた。

コンクリートジャングルの中で疲れきった心身は、極く一部の人間を除けば、大自然の中で癒され、新しい活力を与えられることを、ご先祖方の血を通して、私達は経験的に知っているからである。

「白神山地」には、以上のような高い精神的な働きがあるばかりではなく、単に目で見える観光の他に、建築材や燃料材の生産を除いても、豊かな自然の食材や、珍しい観賞植物・薬用植物の生産、保険・衛生効果、空気洗淨の働き、

農業灌漑用水・産業用水の確保、飲料水浄化の働き、人間以外の生産物との共生を図る自然生態効果、沿岸漁業を活性化させるプランクトンなどを増殖させる栄養資源を無限に供給続ける効果等は、他の森に比較して図抜けて高いものである。

世界自然遺産というのは、他をもって替えることの出来ない、実に貴重な数の少ない人類の宝なのである。

「白神山地」は、隅々「其処にある、飛び抜けて高い優れモノ」故に、単に観光の目玉としてのみ扱ってはならない。

ビジターセンターには、以上述べたような内容を包括総合する、世界自然遺産「白神山地」の存在価値とその意義を、全人類に向かって発信していかなければならない大きな目標が提示され、その中心的な存在と機能が求められている。

自然を崇め素朴を重んじ、浮文技巧は恥とする態度が求められている。

かりそめにも、安易な取り組みは許されない。



白神山地ビジターセンター

【開館時間】 9:00～16:30 大型映像上映時刻 (10:00・11:20・13:00・14:10・15:20 ※上映時間30分)

【休館日】 (1) 4月～12月 第2月曜日(祝日の場合は翌日)
(2) 1月～3月 毎週月曜日と木曜日(祝日の場合は翌日)
(3) 年末年始 12月29日～1月3日

【入館料等】 入館は無料 映像観覧は有料 ●一般 200円 ●小・中学校 100円 ※団体割引(20人以上)

〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1

Tel: 0172-85-2810 Fax: 0172-85-2833

ホームページ <http://www.shirakami-visitor.jp/>

※42名まで収容できる会議室、工作室があります。ご利用下さい。(要申込み)
※学校の見学や体験学習については相談をうけています。ご連絡下さい。